エンジェルに…

魔法戦隊三輪野助

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト
http://pdfnovels.net/

注意事項

このＰＤＦファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にＰＤＦ化させたものです。
この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのＰＤＦファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
エンジェルに…

【Ｎコード】
Ｎ２５９１Ｃ

【作者名】
魔法戦隊三輪野助

【あらすじ】
再投稿させていただきます。白い雪のサイドストーリーでベルのそのごについてです。えっと一からの手直しでないためあまりにも稚拙ですが、ご了承ください。超ひどいところを修正しました。

ボスはいえ、エンジェルは私の前から去った

彼女はジンたちの黒い心を取り戻すためなぜ、どうしてあなたの心は白いの・・？

私の心は黒いままなのに溶けていく白い雪
白い雪は、私の頬に冷たい状態でつたろうとする。
同時に私の心の奥の黒い心は溶かしてくれないのかなぁ……と云う事をついつい考える。
さっきまでが信じられない

私のような黒い心しか持たない冷酷な人間とエンジェルのような人のことを自分のことのように思いやる心の優しい人間が同じ場所にいて隣でしゃべりあったり、
同じ地を踏んでいた
そしてお互いに同じ純白な雪を見据えた。

私には”そんな光景”はとても信じられない。

天使と堕天使が対面するなんて……と思い詰めていた。

天使は堕天使のことを狩ろうとするけれど、彼女の場合、違った。

堕天使を白の方へと導いてくれた。

堕天使は，罰される，べき者
数々の罪を重ねともに痛々しい心の傷が増やす。

それは一生刻まれる
堕天使という証の刻印のように・・・
監獄の中でひとときを過ごす

堕天使たる者に何もない
あるものは地獄と監獄の絶望的な世界

最初は普通の心を持っていたのに数々の環境におかされて今は完全な黒になった。まだ灰色なら天使と堕天使の境目になるから救われるかもしれない

しかし堕天使は救われない運命
監獄の檻に中で一生己を恨みそのまま命を絶つだけ

――己の罪は己で償わなければならない
自分の犯したこと責任持たなければならない
それを良く知っていたのは、私本人
白い心の主を私が汚す権利など一つもない
そして、黒い心の自分が同じ道を歩む必要などない

彼女を見ていると自分の存在全てを否定してしまう
本当は自分のことをダークな心しか持っていない堕天使だなんて認めたくもない

でも彼女の羽ばたくように家に向かう後ろ姿を見るたび、
自分とは正反対だと思ってしまう

私は彼女のように羽ばたけない
いつも心の奥底で人を恨みながら生きていた

彼女はいつも人のことも自分のことのように悩んだりする
己を犠牲にしてまで絶対に人を救おうとする
それほど心が白しか混じっていない優しいエンジェル

彼女の白が入れば己の黒い（ブラックな）心は変われると思った。
しかし心が白と黒では所詮合うわけがない

タバコを一本吸った。

まだきれいに輝いている景色を灰色の世界へと変えようとする。
身の周りを灰色の世界で包まれる。
抽象的な世界へと変化を伴う。
タバコを一本吸った後は、さりげなくタバコを捨てる。
ポトンと落ちると同時に黒みをおびた灰がちょうど雪の上に広がって落ちる
さらに雪に灰が舞う。

妙な臭いが鼻に付く。
絨毯のように灰が白い雪に広がる。

私はもう白かった雪を汚してしまった…。

私が行動するたび黒（ブラック）が増殖される。

その事が痛々しく残る。
哀しい色で染められた雪を凝視しては、ため息を漏らす。
眉をしかめて軽く手を額へ添える。一種の中毒症状によって身を滅ぼされる

自ら黒好(ブラック)んでしまう
それがたとえやってはいけないことだとわかっていてもつい行動を犯してしまう

私はこうして自らの手を汚していく

ボスは私たちのもとに来ても変わらないまま・・・
潔白な心を保ち続ける

私も彼女のように白い心の持ち主だったら堂々と白い雪の世界を歩むことができたのに……
顔を上げて上を見据えては、哀しげな表情に変える。
過去の思いが私の脳裏に甦る。

今、私が白銀の世界に足を踏み入れるとブラックに染まっていってしまう気がする
周りを見渡せば白い雪は鮮やかに溶けていった

白銀の世界はなくなって気候は暖かくなる
それと同時に朝日がのぼる
曙光の時が訪れた。
「そろそろ戻らなきゃ・・」そう言って携帯電話で現在の時間を確認する。
車のドアを慣れた手付きで開けてすぐに座る
一息ついてから収納ボックスに入っている写真を取り出す

『Ａｎｇｅｌ』と書かれたボス（蘭）の写真を見る。

「ボスいいえ、Ａｎｇｅｌ(エンジェル)・・・
新しい季節が始まったようね。

ついに組織が動き出したわ。」
ベルモットは途切れ途切れに一言つぶやいてから車のエンジンをかけて発車した
“向かう行き先は白銀の世界には相応しくないカラスのようなアジト”

私は今も暗黒に堕ちている

ここから私たち組織からボスが動き始めた
私は、この時から既に予感が走ったのよ……
この事件、最悪な結末で終わるって事がね。
あの方であるエンジェルがもう今も動き始めている今となってはね。

溶けた雪のせいで窓ガラスに水滴が残っているのが分かる。
私は、まだ溶けかけの雪の中を走る。

（後書き）

申し訳ないです。再投稿といってもめんどくさいのでひどいところが沢山ですが全ては手直ししていません。（おい）なので文章と言えません。言い訳ですみません。

最大に稚拙…言い切れます

ただ全く本気で無いです

言い切れます。ここまでひどく無い事ぐらいは言い切れます。変な小説ばかりですみません

ＰＤＦ小説ネット発足にあたって

ＰＤＦ小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は２００７年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にＰＤＦ形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのＰＤＦ小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能（たんのう）してください。

この小説の詳細については以下のＵＲＬをご覧ください。
http://ncode.syosetu.com/n2591c/

エンジェルに…

2010年10月9日02時25分発行